

平成25年度

教育委員会の事務執行に関する評価

(平成24年度対象)

平成25年8月23日

みやこ町教育委員会

目次

みやこ町教育委員会の自己点検・評価	- 3 -
Ⅰ 教育委員会の活動	- 3 -
Ⅱ 教育委員会が管理・執行する事務	- 5 -
Ⅲ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務 .	- 8 -
1 学校教育における学習環境の充実	- 9 -
2 生涯学習のための環境整備	- 22 -
3 図書館の整備・充実	- 26 -
4 博物館・文化財の整備・充実と芸術文化の振興 .	- 31 -
5 スポーツ・レクリエーションの推進	- 41 -

教育委員会の事務執行に関する評価の概要

1. 教育委員会の事務の点検・評価制度について

平成20年4月から施行された『地方教育行政の組織および運営に関する法律』の一部改正により、教育委員会は、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理および執行の状況について、自己点検および評価を行い、報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

みやこ町教育委員会では、地域の教育課題や教育ニーズに応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これらに基づいて実施した政策について、その必要性、効率性等の観点から自ら点検・評価・公表することは、町民に対する説明責任を果たすことにより、町民の信頼を高め、開かれた教育行政を推進していく上で非常に重要なことであると考えております。

このことを踏まえて、平成24年度の教育委員会活動を

- I 「教育委員会の活動」
- II 「教育委員会が管理・執行する事務」
- III 「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」

の3点から、教育委員会自らがその進捗状況・達成状況等について、点検・評価を実施し、報告書を作成したものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

評価判断基準		
A 達成できた	B おおむね達成できた	C 達成できなかった

みやこ町教育委員会の自己点検・評価

I 教育委員会の活動

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
(1) 教育委員会の会議の運営改善	①教育委員会会議の開催回数	B	○ 定例会を11回、臨時会を6回実施した。	緊急に対応すべき案件についても、その都度臨時会を開催して、その対応に努めていると判断する。
	②教育委員会会議の運営上の工夫	B	○ 教育委員会の会議における案件については、事務局により提案し、教務課長及び生涯学習課長、学校給食課長が説明をし、詳細については、それぞれの係長が補足説明を行っている。	「運営上の工夫」の項目であることを考えるならば、今後、提案に至る手続きや、会議運営上の改善策（例えば公表の方法）等について点検・評価することを要望する。
(2) 教育委員会会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	①教育委員会会議の傍聴者の状況	B	○ 傍聴者0名 傍聴を促す取組等なし。	教育委員会の活動の公開性に鑑み、昨年度に引き続き、傍聴を促す取組み、公表、情報発信の方策等の検討を期待する。

	②議事録の公開、広報・公聴活動の状況	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開催告示をし、周知を図った。 ○ 議事録は、情報公開条例に基づいて公表するようにしている。 ○ 平成25年度から教育委員会開催をホームページに掲載し、告示するよう準備をしている。 	議事録の公表は実施されている。今後は、審議項目等もホームページに掲載し、傍聴者が参加しやすい環境を整えることを期待する。
(3) 教育委員の自己研鑽	① 研修会への参加状況	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内で開催された教育委員を対象とした研修会に参加した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県市町村教育委員会女性教育委員研修会 ・ 県教育委員長研修会 ○ 京築地区で開催された教育委員対象の研修会に参加した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 京築地区市町村教育委員会教育委員研修会 ・ 教育委員会教育委員等人権教育研修会 ○ 学校の研究発表会に参加した。 	<p>学校教育、生涯学習・スポーツ等教育の各分野での識見を深めるよう期待する。</p> <p>教育委員の自己研鑽のため、教育委員が自ら課題を設定して積極的に研修を行うよう望む。</p>
(4) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備	① 学校訪問	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月5日に豊津小、犀川小、犀川中を訪問した。 ○ 24年度から教育事務所同席による要請学校訪問に併せて訪問した。 	<p>実態把握には学校訪問は不可欠。今後も積極的な学校訪問を望む。</p> <p>年間を通して、計画的に全小中学校を訪問し、儀礼的で</p>

			○ 卒業式、入学式、運動会等学校行事に参加した。	はなく、課題をもって訪問することが必要であると考え
	② 所管施設の訪問	A	○ 各施設で行われる学校行事、生涯学習課行事、体育協会、育成会の行事に積極的に参加し、施設の状況や活用状況を確認した。	

II 教育委員会が管理・執行する事務

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること		A	○ みやこ町教育施策について、審議を行い、策定し、各学校に配布した。	国・県の教育施策との整合性の検討とともに、町独自の教育施策の検討を期待する。また、各校の教育指導計画と整合性のチェックが望まれる。(
(2) 教育委員会規則及び規定を制定し、又は改廃すること。		A	<ul style="list-style-type: none"> ・みやこ町教育委員会庶務規則の一部改正 ・みやこ町学校給食センターの設置及び管理運営に関する条例施行規則 ・みやこ町学校給食センター運 	適切に規則改正が行われている。

		営委員会規則 ・みやこ町学校給食用物資選定委員会規則 ・みやこ町学校給食献立委員会規則 ・みやこ町学校教育振興基金条例施行規則 ・みやこ町学校の町雇用非常勤の任用等に関する規則	
(3) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること	A	<input type="radio"/> 教育委員会に新年度の主要な予算について報告。 <input type="radio"/> 条例の制定・改正及び廃止については教育委員会の議決を得ている。 ・みやこ町学校給食センターの設置及び管理運営に関する条例の制定 ・みやこ町学校教育振興基金条例の制定	
(4) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止すること		<input type="radio"/> 該当なし。	
(5) 県費負担に係る教職員の人事の内申に関すること	B	<input type="radio"/> 管理職人事、人事異動に係る内申を行った。	
(6) 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の	B	<input type="radio"/> 学校評議員	

<p>任命又は委嘱に関する事</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○ みやこ町学校給食センター運営委員 ○ みやこ町学校給食物資選定委員 ○ みやこ町学校給食献立委員 ○ みやこ町歴史民俗博物館運営委員 ○ みやこ町文化財保護委員 ○ みやこ町スポーツ推進委員 	
<p>(7) 教科用図書採択の決定に関する事</p>	/	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成24年度は教科書改訂がないため、実施なし。 	
<p>(8) 通学区域を設定し、又は変更すること</p>	/	<ul style="list-style-type: none"> ○ 該当なし。 	
<p>(9) 文化財を指定し、又は指定を解除すること</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化財を6件解除した。 ・銅製金剛盤 ・紙本着色伝教大師坐像 ・紙本着色文殊菩薩騎獅像 ・紙本着色阿弥陀三尊立像 ・切紙断簡 ・札箱（伝書状箱） 	
<p>(10) 請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関する事</p>	/	<ul style="list-style-type: none"> ○ 該当なし。 	

Ⅲ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

子どもたちが、ふるさとで学び、育ちそして大人になった時ふるさと・みやこ町への愛着と誇りとともに、平和を愛する気持ちを持ち続けることが大切だと考えます。

そのため、生命を大切に作る心を育てる教育の推進、「みやこ」ならではの文化を活かした活動や、学力の充実・向上家庭の子育て支援などにより、次世代を担う子供を育てていきます。

また、生涯学習の推進に当たっては、住民一人一人のさまざまなニーズに応じて、住民が主体的に、“いつでも・どこでも・だれでも・なんでも” 学ぶことができる学習の場づくりや情報提供を行います。

さらに、地域に伝わる歴史や伝統文化を継承し、活用するとともに、住民の主体的な文化・芸術活動を支援し、文化の薫り高いまちづくりに努めます。

※ 評価項目は、「みやこ町総合計画 後期基本計画2012－2016 交流と連携により ともに夢を描く 共生・協働のまち」の基本計画に示された主要事業です。

有効性	効率性	達成度	総合評価
事業が目標達成に有効であるかを評価する。	事業が効率的に実施できたかを評価する。	計画通り達成しているかを評価する。	3つの評価項目を勘案し、総合的に評価を行う。
評価判断基準			
A 有効である	A 実施できている	A 期待を上回る	A 達成できた
B おおむね有効である	B おおむね実施できている	B おおむね期待どおり	B おおむね達成できた
C あまり有効でない	C 実施できていない	C 期待を下回る	C 達成できなかった

1 学校教育における学習環境の充実

<p>施策の方針</p>	<p>社会環境や家庭環境の変化が進む中、生きる力（確かな学力、豊かな心、健やかな身体）を育む教育をめざし、また適正な学習環境を確保するため、学校施設を整備し、特色ある教育を推進します。家庭・学校・地域・行政の連携を強化し、児童・生徒の安全確保、地元農産物を利用した学校給食の充実を図ります。</p>						
<p>主要施策</p>	<p>主要事業</p>	<p>内容・成果</p>	<p>評価</p>				<p>外部評価</p>
			<p>有効性</p>	<p>効率性</p>	<p>達成度</p>	<p>総合評価</p>	
<p>学校教育の充実</p>	<p>基礎学力向上に向けた教育の充実</p> <p>生きる力の育成促進</p>	<p>○ 町常勤講師の配置。（35人学級） ≪小学校≫ 黒田小1名、豊津小1名、犀川小1名 ≪中学校≫ 豊津中1名、犀川中1名</p> <p>○ 町非常勤講師の配置。（複式学級補助） ≪小学校≫ 諫山小1名、節丸小1名 柳瀬小1名、上高屋小1名、城井小1名</p> <p>○ 町予算で全学年の国語及び算数ドリル学習による読解力の定</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>国・県の学力向上策との整合性及び具体的な施策等についても町民にわかる記述 - 例えば、「内容・成果」の欄に成果を示すなど、工夫をされたい。</p> <p>習熟度テストについては、「学力検証委員会」の分析・検討を通して、新たな施策を策定するなどの対応を期待する。</p> <p>特に学力向上に大変効果があると考えられるTTや習熟度別クラス等、多様な授業を展開させる工夫をしてもらいたい。</p>

		<p>着を図った。(教科指導)</p> <p>《中学校》</p> <p>勝山中3名、豊津中3名、犀川中3名、伊良原中1名</p> <p style="text-align: right;">総計 20名</p> <p>○ 豊津中学校区、勝山中学校区で、県の「ふくおか学力向上推進事業」に取り組んだ。</p> <p>○ 町予算による習熟度テストを実施し、成果を収集・分析し活かした。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 引き続き、非常勤講師の配置等学習環境の整備を行う。また、小中学校の学力を客観的に分析し、学力が向上するよう対策を行う。</p>					
	心の教育の推進	<p>○ 行橋市の適応指導教室との連携を図り、クラスに入れない児童・生徒の支援を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 今後も丁寧な対応をし、継続し</p>	A	B	A	A	<p>「心の教育」は、「豊かな心」の育成に関わる項目であり、「適応指導」に限定されるものではない。道徳教育ほか、様々な取り組みと成果について</p>

			ていく。					て点検・評価していただきたい。
学習環境の確保	不登校児童・生徒に対する相談窓口の設置	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導主事2名を教育委員会に配置し、電話相談・面談等を実施。 ○ 保護者・学校と密に連絡を取り、個々に応じた指導に努めたことで、区域外就学により不登校が解消した事例もある。 ○ 不登校児童・生徒数 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 5名 ・中学校 22名 <p>《課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不登校解消には有効であるため、今後も継続していく。 	A	B	A	A	不登校解消は極めて困難な問題であり、引き続きよりきめ細かい入念な支援を各学校・各家庭と連携して進めていただきたい。また、関係機関を有効に活用することも検討願いたい。	
	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学級支援員、介助員を配置。 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級支援員 犀川小1名 ・介助員 久保小1名、黒田小1名、犀川小1名、勝山中1名、豊津中1名 	A	B	B	B	適切に配置されている。	

			<p style="text-align: center;">総計 6 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 就学指導委員会の内容を充実させるため、健康づくり課、住民課、社会福祉協議会、保育園等と連携を密にして、支援の必要な新就学児童の情報を共有した。 ○ 専門家による学校での巡回相談等を実施した。 ○ 障害のある子どもの居住地校交流事業を豊津小、黒田小、伊良原小で実施した。 <p>《課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、専門家との関係を密にし、児童・生徒を支援する。 					
		世代間、地域間交流による地域に開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習の時間の講師予算を措置し、地域の講師を招聘した。地域に在住する方を講師に招聘し、農業や音楽活動など多様な学習活動ができた。 	A	B	B	B	児童・生徒の学習に有効であり、継続・発展させることを期待する。

			<p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 地域の人材を活用した学習活動と教員による日常の教育活動との連携・調整を行いながら、活用時間数の基準を決める必要がある。</p>					
	特色ある学校づくりの推進	小中一貫教育の推進	<p>○ 中学校区単位での校長会議などが開かれ、具体的な取組として中学校による小学校への出前授業を実施した。また、校長会では、9年間の教育活動全体に連続性を持たせるよう、小中の連携を強化させた。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 小中相互の出前授業の実施等小中連携の取組みを推進する。</p>	A	B	B	B	「みやこ町学校在り方検討委員会」の答申を踏まえ、小中一貫教育実現に向けての組織の具体化を期待する。その際、数多くの課題が考えられるが子どもたちにとって魅力ある学校や、保護者にとって安心して行かせたい学校作りをすすめてもらいたい。
	の推進	国際感覚を養う教育の充実	<p>○ 小学校（英語活動）、中学校（英語科）において外部講師による支援を実施。</p> <p>○ 小学校において、全11校合計1,250時間の外国語活動の授業と、勝山地区・豊津地区の小学生による英語活動学習発表会を实</p>	A	B	A	A	<p>中学校英語科の教育目標達成のためのALTの活用を協議する協議会等の設立と定期的な会合の場の設定等の施策の検討を期待する。</p> <p>小中連携の観点から中学校英語科教諭の小学校</p>

		<p>施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校においては、町雇用ALTを活用した授業と中学校英語スピーチコンテストを実施。 ○ 小学校外国語指導業務委託業者2社を1社に統一するため、プロポーザルによる選考委員会を実施した。 <p>《課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒は英語に関心が高く、前年度の実績もあるため、この取組みを継続していく。 					<p>への出前授業や小学校の英語活動を担当する教諭と中学校英語科教諭との連絡協議会等の設置も検討を願いたい。</p>
学校施設の整備・充実	特色ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成24年6月に学校在り方検討委員会を設置し、平成25年2月に学校在り方検討委員会より「みやこ町学校在り方について」の答申を受理した。 ○ 町のホームページに学校在り方検討委員会の答申と、幼稚園・保育所（園）、小・中学校の保護者を対象にした意識アンケートの集約 	A	A	A	A	<p>この答申を踏まえ、小中一貫校設立を含めた再編整備を財政面、教育実践面及び児童・生徒の視点から検討されることを期待する。</p> <p>「学校在り方検討委員会」のメンバーとして、これから就学する子供を</p>

		<p>結果を掲載している。また、教育講演会では、学校在り方検討委員会の委員長を務めた谷教授より、答申の内容を講演していただき、住民に周知を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 小中学校再編整備計画策定委員会を立ち上げ、より具体的に今後の学校の在り方について検討する。</p>					持つ若い保護者が多いことを評価する。今後の具体化に期待する。
小中学校施設の改修	<p>○ 学校要望・現況調査により、学習環境の維持・改善に必要と判断したものに対し工事及び修繕を行った。</p> <p>・ 24年度の主な改修工事一覧</p> <p>黒田小（パソコン配線等工事）、豊津小（プール内壁防水補修工事、校舎外壁補修工事）、城井小（教室エアコン取付工事）、伊良原小（伊良原小学校移転工事、伊良原小学校移転LAN配線工事）、柳瀬小（教室エアコン取付工事）、黒田小（特別支援教室アコーディオンカーテン設置工事、特別支援教室補助手摺設置工事）、上高屋小（水道</p>	B	B	B	B	計画に沿って改修されることを期待する。	

		<p>配管補修工事)、勝山中(テニスコート内側面フェンス嵩上げ工事)、豊津中(教室エアコン取付工事防犯カメラ設置工事)、犀川中(門扉設置工事)、伊良原中(土砂撤去工事、エアコン配線増設工事)</p> <p>・24年度みやこ町各小・中学校要望件数 212件</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 平成25年2月に学校在り方検討委員会より答申された『みやこ町学校在り方について』を踏まえ、平成25年度に今後の学校の整備計画をより具体化するために小中学校再編整備計画策定委員会を設置予定。学校の老朽化(築35年以上が73%)が進み、大規模改修等が必要な学校が増加している状況があるので出来るだけ早急に方向性を決める。</p>					
児童・生徒の安全確保	地域・学校の連携強化	<p>○ 各学校に見守り安全隊(地元ボランティア)を組織し、児童・生徒の安全の確保を図る。見守り安全隊(犀川地区18名、豊津地区</p>	A	B	A	A	<p>十分に成果が認められる活動になっている。</p> <p>ボランティアにユニフォームを新規に配布した</p>

		<p>7名、勝山地区10名)を組織し、児童・生徒の安全の確保を図った。</p> <p>また、ボランティアが分かりやすいように見守り安全隊に冬の防寒用ユニフォームを新規に配布した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 今後は、スクールガードリーダー、見守り安全隊（地元ボランティア）等関係組織をより連携させるため会合等を行うなどし、さらなる児童・生徒の安全の確保に努めたい。</p>					<p>ことについては、活動にメリハリができる。</p> <p>「今後の方向性」にあるように各組織の密な連携、速やかな情報提供ができ、定期的な会合のできる連絡協議会等の組織化の検討を期待する。</p>
	<p>スクールボランティア、スクールガードリーダー¹の育成</p>	<p>○ スクールガードリーダーを各地区(旧町単位)に1名ずつ配置し、児童・生徒の安全確保に努め、活動報告書を月に1度提出させた。</p> <p>また、不審者情報等あった場合は、スクールガードリーダーに連絡し、注意をしながら見守りを行</p>	A	B	A	A	

¹ スクールガードリーダー：子供たちの登下校に合わせ、通学路の巡回パトロールや危険箇所の監視等を行う、学校安全ボランティアのこと。

		<p>うよう徹底させた。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ スクールガードリーダーと見守り安全隊と会合等行いながら連携を密にする。</p>																	
	<p>スクールバスの運行、通学区の見直しによる活性化</p>	<p>○ 事務の効率化や関係機関との連携を密にすることで、安全でスムーズなスクールバスの運行を行うとともに通学区の見直しも検討する。</p> <p>・ 24年度スクールバス利用者数</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>犀川小学校</td><td>36名</td></tr> <tr><td>柳瀬小学校</td><td>16名</td></tr> <tr><td>のびのび幼稚園</td><td>12名</td></tr> <tr><td>のぞみ保育園</td><td>1名</td></tr> <tr><td>犀川保育所</td><td>3名</td></tr> <tr><td>計</td><td>68名</td></tr> </table> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 現在、今後のみやこ町の生活交通の在り方について、町総合政策課において検討しているので、連携して検討する。</p>	犀川小学校	36名	柳瀬小学校	16名	のびのび幼稚園	12名	のぞみ保育園	1名	犀川保育所	3名	計	68名	A	B	B	B	<p>「今後の方向性」に沿って検討を期待する。</p>
犀川小学校	36名																		
柳瀬小学校	16名																		
のびのび幼稚園	12名																		
のぞみ保育園	1名																		
犀川保育所	3名																		
計	68名																		
<p>家庭教育の推進</p>	<p>保護者の家庭教育機会の充実</p>	<p>○ 各学校単位のPTA主催での家庭教育学級の充実に向け支援を行った。</p>	A	B	B	B	<p>教育講演会の取り組みは重要であり、いっそうの充実を図っていただき</p>												

		<p>○ 町PTA連絡協議会主催で大学の教授を招いて教育講演会を開催した。</p> <p>講師：谷 友雄（福岡教育大学教職大学院 特任教授）</p> <p>演題：「みやこ町学校在り方検討委員会について」</p> <p>講師：天笠 茂（千葉大学 教授）</p> <p>演題：「これからの学校教育に求められるもの」～新しい学校教育を考える～</p> <p>参加者数 192名</p> <p>○ ふくおか学力向上推進事業を活用して「家庭学習の習慣を身につけよう」のリーフレットを町校長会を通して全保護者に配布した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 全体で定期的に教育講演会を実施できるよう検討する。</p>					たい。
山村留学の推進	山村留学の担い手となる人材の参加促進と人材	<p>○ 具体的な取組みは実施できていない。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p>	B	C	C	C	本取り組みの有効性について再考していただきたい。

	育成	○ 山村留学が必要かどうか費用対効果も含め基本方針を再考する必要がある。					
学校給食の充実	学校給食センターの整備・充実	<p>○ みやこ町学校給食センターが完成。調理場は最新のドライ方式を導入したことにより、床面から跳ね上がる水による食材への汚染が防止されるなど、食中毒等の発生を少なくすることができ、衛生管理が徹底された設備を整えた。</p> <p>○ 衛生管理面はドライ方式を導入し「床面からの水はねによる食材への汚染防止」と「入荷・調理・出荷までの各工程で衛生上の問題の発生を防ぐ衛生管理手法を取り入れた。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 見学・調理実習を行う施設を活用し、保護者・児童生徒の食育の推進を務める。</p> <p>○ 食物アレルギー対応については、専門家、関係者と検討協議し、</p>	A	A	B	A	ハード面の充実がはかられたことを高く評価する。今後は、食育の推進のため、生徒向け、保護者向けの栄養教諭の活動の検討等、ソフト面（内容、方法）の工夫、改善を期待する。

		実施に向けた準備を行う。					
	米飯給食の拡大	○ 平成25年4月から給食センターで米飯給食を週3回から週4回にスムーズに移行できるよう、給食センター運営に関する会議を14回開催した。	A	A	B	A	児童生徒の希望も多く、ぜひ4回実施への移行を望む。
	地場産農産物の利用促進	○ 地場産農産物の利用率の向上に取り組む。 ○ 給食センター・町産業課・農協等関係機関と協議し、野菜の納入規格緩和への対策や野菜の地元農産物納入への基盤づくりを進めた。 ○ また、各月ごとに給食指導目標を決め、その目標に沿って献立を作成し、季節の応じた地場産の食材を積極的に使用。 《課題・今後の方向性》 ○ 給食献立・給食指導年間計画を作成し、各関係機関と連携し、地場産農産物の利用率の向上に取り組む。	A	B	B	B	

2 生涯学習のための環境整備

<p>施策の方針</p>	<p>身近な場所で、気軽に自由に生涯学習に取り組むことのできる環境づくりと、参加したくなるプログラムの開発を進め、「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」自主的に学ぶことができる多様な学習機会を提供します。</p>						
<p>主要施策</p>	<p>主要事業</p>	<p>内容・成果</p>	<p>評価</p>				<p>外部評価</p>
			<p>有効性</p>	<p>効率性</p>	<p>達成度</p>	<p>総合評価</p>	
<p>「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」学ぶことができる学習機会の提供</p>	<p>あらゆる年齢層への学習機会の提供</p>	<p>○ 高齢者大学を次の5地区で開催した。 ・勝山たちばな大学（10回 申込者93名 延べ参加者322名） ・犀川地区ふれあい大学（8回 申込者173名 延べ参加者521名） ・城井地区さわやか大学（7回 申込者79名 延べ参加者259名） ・伊良原地区ふれあい大学（7回 申込者90名 延べ参加者286名） 豊津平成学級（10回 申込者36名 延べ参加者154名） ○ 女性学級を次の3各地区で開催した。 ・勝山女性学級（11回 申込者</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>学習意欲のある高齢者に十分な機会を与えている。</p>

	<p>46名 延べ参加者299名) ・犀川女性学級(10回 申込者104名 延べ参加者458名) ・豊津女性学級(10回 申込者70名 延べ参加者359名) ○ なかよしクッキング(2回 延べ参加者39名)、ふれあいスポーツ(11回 延べ参加者269名)を開催した。</p> <p>《課題・今後の方向性》 ○ 参加者のニーズに合った講座内容を検討していくとともに、無料で派遣依頼できる講師等を活用して参加者の教養、資質の向上を図っていく必要がある。</p>					
<p>教養・趣味向上のための各種講座の充実～文化健康講座、IT²講習など</p>	<p>○ 文化健康講座(12講座を5月～2月開催、申込者252名、延べ参加者3,695名)、パソコン講習(2地区で11月～1月開催、延べ申込者133名)を開催した。</p>	A	B	B	B	<p>十分な学習機会が用意されている。</p>

² IT：情報通信技術。

		<p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 各種講座を開催しているが、参加者のニーズに合った学習機会を検討していき、参加者の教養、資質の向上を図っていく必要がある。</p>					
生涯学習環境の整備	生涯学習情報提供の充実	<p>○ 町広報、防災行政無線等を活用し、高齢者大学、女性学級、文化健康講座等の開催の周知を図った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 生涯学習情報を広く住民に提供していくため、周知の方法や内容を十分検討していく。</p>	A	B	B	B	定時放送等で一定の周知がなされているが、今後は行政区内の回覧等、周知の内容や方法を工夫されたい。
	社会教育団体等への支援	<p>○ 町子供会育成会連合会・町婦人会・諫山校区アンビシャス広場に活動助成や支援をしている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 社会教育関係団等との連携により、子どもの育成や地域</p>	A	B	B	B	

	<p>地域人材を活用した学習内容の充実</p>	<p>の活性化につなげていく。</p> <p>○ 文化・健康講座や一部の高齢者大学では参加者の中で役員を決めてもらい、班分け等をして大学・学級の運営（準備、受付、司会進行、片付け等）を支援してもらい、参加者に運営の主体性を持たせている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 活動意欲のある人材に一人でも多く参加を促し、自主運営につながるように主体性を持たせ、学習した成果が地域活動等に結びつくような人材の育成を検討していく。</p>	A	B	C	B	<p>「学習機会の提供」「学習環境」等概ね良好に実施されていると評価する。</p> <p>今後は、運営マニュアルの作成、講師の一覧表の作成等、自主運営資料の充実を期待する。</p>
--	-------------------------	--	---	---	---	---	--

3 図書館の整備・充実

施策の方針	<p>一般図書に加えて専門的資料や郷土史などを収集し、特色のある専門図書館として充実を図るとともに、移動図書館の充実、学校図書館との情報共有、県内図書館との相互ネットワークの連携など、幅広い読書の機会を提供します。</p> <p>ボランティア活動、文化活動などの交流の場とすることで新しい地域文化の創造を促進します。</p>						
主要施策	主要事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
図書館の利用促進	レファレンスサービス ³ の充実と利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図書館の利用者が学習・調査・研究するうえで必要な文献及び情報について調査援助する。3,689件のサービスを提供した。(H24年度実績) 《課題・今後の方向性》 ○ 研修会等の参加により図書館職員のレファレンスの技術の向上を図る。 	A	B	B	B	図書館職員のレファレンスの技術向上という課題は残るが、着実に利用者のニーズに応じていると判断する。
	図書館と学校図書室・関係機関との情報共有・連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校における調べ学習の対応として資料の提供は必ず学校司書を通して行う。また、不定期であるが学校司書との会議を行い情報共有化を図る。 ○ 読書リーダー養成講座を開 	A	B	B	B	学校司書との情報共有及び連携は徐々に進められている。また、読書リーダー養成の取り組みも、読書推進活動に一定の成果を上げている。今後さらに、中学

³ レファレンスサービス：図書館利用者が必要な情報・資料等を求めた際に、図書館員が情報や必要とされる資料を検索・提供・回答することによってこれを助ける業務。

		<p>催し、学校司書と連携した読書推進活動の支援を行う。</p> <p>参加者 14名</p> <p>○ 福岡県北東部地域拠点都市整備推進計画及び京築アメニティ都市圏内公共図書館の協定による他市町村への資料の貸出や、相互貸借による資料提供をした。23年度の他の市町村の登録者数が303名。みやこ町民が他の市町村立図書館で登録した人数は57名。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 町外利用者数が増加する中で、町外者による資料の延滞が目立ってきている。図書館資料に対するモラルの低下が目立ち回収にも困難を極めている。これらの点をいかに解消していくかが今後の課題である。</p>					<p>生の読書離れに対応するためにもいっそうの努力が期待される。</p> <p>町外在住利用者の図書返却等マナーの改善に向けての方策を検討されたい。</p>
	<p>移動図書館による図書提供の充実</p>	<p>○ 移動図書館車での貸出実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 17,280冊 ・保育所 6,488冊 	A	B	B	B	<p>着実に取り組み、町民にも好評である。</p>

		<p>・地 域 82 冊</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 地域巡回での貸出率が低迷している。地域の住民が図書館に対してどのような支援を求めているのか情報収集することが課題である。</p>					
図書館を活用した地域文化活動の促進	児童・青少年の読書活動の推進	<p>○ 子どもの読書活動推進計画に基づき読書活動の支援や環境の整備に力を入れる。</p> <p>・各館における読書コーナーの整備（図書リストの作成や読書コーナーの掲示方法の見直しを図る）</p> <p>・夏休みチャレンジ教室の開催 参加者 56名</p> <p>・子ども読書週間の開催 （子どもの本のブックリサイクル・おはなし会スタンプラリー等）</p> <p>・読書リーダー養成講座の開催 参加者 14名</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 子どもの読書活動の推進は図られている。</p>	A	A	B	A	「子どもの読書活動の推進計画」に沿ってさらなる支援など環境整備を期待する。
	読書ボランティア	○ 読書ボランティア養成講座	A	B	A	A	着実に活動している。

<p>イア等の人材の育成・確保</p>	<p>を開催した。 「絵本読み聞かせ講座」を開催 (全2回 参加人数29名) 講師 福岡県立図書課規格協力 課普及係 奥野 陽子 氏 ○ ボランティアによるおはなし 会の開催 毎月1回 《課題・今後の方向性》 ○ 読書ボランティアの人材育 成については研修会の推進が 図られている。</p>					
<p>ブックスタート⁴事業の推進</p>	<p>○ 平成23年度よりブックスタ ート事業を開催。 絵本の読み聞かせに反応す る子どもに保護者が感激し、絵 本に関心を持ってくれ、赤ちゃ んと保護者の図書館利用者が 増加傾向にある。 ブックスタートパック提供数 118件 ブックスタート支援員 5名 《課題・今後の方向性》 ○ 4か月児のみではなく、1</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	

⁴ ブックスタート：自治体が行う0歳児健診等で、絵本を開く楽しい体験とともに、赤ちゃんに絵本を手渡す活動。

		<p>歳児にも継続して、絵本と読み聞かせの重要性を説明していくため、フォローアップ事業として「ステップ1ボックス」事業をH25年度より実施していく。</p>					
	<p>地域文化活動促進事業の推進</p>	<p>○ 読書週間における読書講演会やブックリサイクルを実践した。講師に伊藤比呂美氏を招いて講演会を開催する。 参加者 71名 《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 講演会だけではなくあらゆる年代の住民は興味を持って参加できるような文化活動の推進を図る。</p>	A	B	B	B	

4 博物館・文化財の整備・充実と芸術文化の振興

施策の方針	歴史民俗博物館を拠点として、地域・学校と連携した学習活動、史跡などを利用した交流活動、郷土文化の振興を図る文化活動を推進し、地域文化の幅広い後継者の育成に努めます。						
主要施策	主要事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
町内の文化財の有効活用	国府跡公園・国分寺跡公園の活用	<p>○ 豊前国府跡公園については、平成25年度に改修工事を行うため実施設計を行った。設計にあたっては、県及び地元関係者と協議を重ね、①公園北側（国府の郷側）の見通しの改善（築山の再編整備等）、②身障者の立場に立った利便性の向上（入口・園路の改修）、③楽しむことが出来る設備の設置（大型遊具・野外ステージ）を主要な改修内容とした。</p> <p>また、6月に「第1回豊前国府まつり」を開催し、地元区と協力して豊前国府跡公園の有効活用をはかった。</p> <p>○ 豊前国分寺跡については、建築から20年以上が経過し、老朽化が進んでいた国分</p>	A	B	B	B	取り組みに対しては町民の好評を得ている。特に第1回豊前国府まつりについては、大変好評で盛況であった。また、三重塔まつりについては、まつりが定着し、多くの参加者が見られる。町内外の人々が楽しみにしている。

		<p>寺案内所の改修工事を行った（塗装及び腐朽部分の取替え等）。</p> <p>また、2月末に「三重塔まつり」を開催し、少年・少女俳句大会の表彰、各種出店、祓郷太鼓の披露等行い、500～600名程度の来場者があった。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国府跡公園は、平成25年度実施予定の改修工事によって、とくに子どもの来園者が増加することを予想・期待している。 ○ 国分寺跡公園は、全体的に老朽化が進み、排水等の見直しが必要となっている。平成25年度以降、県・文化庁と協議を進める予定である。 ○ 国府跡・国分寺跡をはじめ、重要かつ希少なものであるにもかかわらず、町内文化財の認知度が必ずしも高くない。パンフレットの作成、インターネット 					
--	--	---	--	--	--	--	--

		トの利用等により、一層の周知化に努める。					
	史跡案内板の設置	<p>○ 仲哀峠に「仲哀峠の歴史」を説明する案内板を設置した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 文化財の保存・活用のあり方について、平成24年度に文化財保護委員会から示された答申に基づき、案内板の設備を進める。</p>	A	A	B	B	好評である。
歴史民俗博物館の事業振興と機能強化	博物館資料収集事業・展示事業・教育普及事業	<p>○ 資料収集事業 小宮豊隆資料411点の寄贈手続きが完了した。平成25年度に受領予定である。</p> <p>○ 展示事業（企画展4回）</p> <p>・豊前国分寺胎蔵界曼荼羅特別展示 開催期間：5月12日・13日 観覧者数：286名</p> <p>・「プロレタリア作家 葉山嘉樹資料展」 開催期間：6月26日～7月22日 観覧者数：402名</p>	A	A	B	B	充実した興味深い内容になっている。今後も期待する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・「向井澄夫写真展」 開催期間：7月20日～8月28日 観覧者数：669名 ・「蔵持山発掘速報展」 開催期間：11月20日～12月23日 観覧者数：585名 <p>○ 教育普及事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史講座年間受講者数 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">古典仮名講座</td> <td style="text-align: right;">212名</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">漢詩文講座</td> <td style="text-align: right;">165名</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">古文書講座</td> <td style="text-align: right;">179名</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">金曜古文書講座</td> <td style="text-align: right;">145名</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">みやこ学講座</td> <td style="text-align: right;">87名</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">788名</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">(前年度比41名増)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校学習支援 (見学説明・出前授業等) <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">延べ対応件数</td> <td style="text-align: right;">24件</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">延べ対応人数</td> <td style="text-align: right;">799名</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館だより 毎月発行 	古典仮名講座	212名	漢詩文講座	165名	古文書講座	179名	金曜古文書講座	145名	みやこ学講座	87名	計	788名	延べ対応件数	24件	延べ対応人数	799名				
古典仮名講座	212名																					
漢詩文講座	165名																					
古文書講座	179名																					
金曜古文書講座	145名																					
みやこ学講座	87名																					
計	788名																					
延べ対応件数	24件																					
延べ対応人数	799名																					

		<p>町内全戸配布 他博物館へ郵送</p> <p>○ 平成24年度博物館観覧・利用者数（各種学習支援等含む） 合計 8,185名 （前年比101名減）</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 歴史講座や小中学生対象の学習支援は順調な運営・対応ができているが、利用者数全体では対前年比で微減している。より一層の広報活動に努めたい。</p>					
	博物館友の会 運営事業	<p>○ 博物館友の会は、独立採算で各種文化事業を行った。平成24年度の会員数は182名で15事業（文化講演会、バスハイク、伝統民俗芸能鑑賞会等）を実施した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 会員の高齢化が進みつつあり、若年層の会員を積極的に</p>	A	A	A	A	今後、小・中・高生を対象とした事業の拡大を望まれる。

		募る取組みが必要である。					
歴史民俗博物館ホームページによる情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページ「みやこ町デジタルミュージアム」の運営を行い、文化財・博物館情報の発信を行った。 <p>《課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 最新情報の提供が遅れることもあった。担当者を定め、きめ細かい運営を心がける。 	B	B	B	B	ホームページは年々多くの町民が見ている。タイムリーで迅速な更新を望む。(
他博物館との事業支援と連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他館への資料の貸出しや情報提供を実施した。九州国立博物館、海事広報展示館等。 ○ 県立図書館郷土資料課の郷土資料調査に協力した。あわせて、平成25年度に県立図書館が実施予定の小笠原文庫マイクロフィルム化事業について実施方法等の協議を行った。 <p>《課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史文化資源を活用した交流拠点として機能すべく、積 	B	B	B	B		

		極的に他館との交流を進める。					
遺跡・文化財の整備推進	開発行為による遺跡破壊の防止・調査	<ul style="list-style-type: none"> ○ 民間開発にともなう発掘調査を国庫補助事業で2件（勝山長川、犀川花熊）実施し、記録保存を行った。 ○ 蔵持山林道の建設にともない、県委託事業で発掘調査を1件実施し、記録保存を行った。 ○ 東九州自動車道建設に伴う発掘調査（国作八反田遺跡、皆見中園遺跡）の調査報告書を発行するため（平成26年度を予定）、整理作業を実施した。 ○ 旧町実施の発掘調査報告書「みやこ町内遺跡群Ⅶ」を刊行し、調査成果を国民共有の知的財産として公表することが出来た。 	A	A	A	A	大変な作業であるが成果がでてしていると判断する。

		<p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 発掘調査によって出土した資料の収蔵場所の確保が必要である。</p>					
	文化財の適切な整備	<p>○ 文化財保護委員会に対し、町内文化財の保存・活用のあり方について諮問し（9月）、同委員会作業部会の調査を経て、3月に答申を受けた。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 答申に基づき、計画的に文化財の保存・活用に取り組む。</p>	B	A	B	B	
	伝統文化の保存、継承	<p>○ 指定文化財保存団体に対し、人的・物的な補助・協力を行い、文化財の保存・継承を支援した。生立八幡宮山笠行事、黒田楽等。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 高齢化の進展に伴い、近い将来実施が困難となる民俗行事が出てくる可能性がある。地域振興部局との連携が必要である。</p>	B	B	B	B	若者を中心とした後継者育成の取り組みを望む。

総合的な文化振興事業の推進	文化振興条例の制定と文化審議会の設置	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成22年度に開催した「文化を活かした町づくり検討会議」の提言に基づき、各種文化振興事業（古墳フォーラム）に取り組んでいる。 ○ 文化振興に関する先進自治体の事例を収集している。 <p>《課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成24年度は文化振興条例、文化審議会の制定・設置に関し、必要な調査を行っている段階である。 	B	B	B	B	フォーラム関連事業は大変好評であり、継続してもらいたい。
	文化協会等による文化・芸術活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ みやこ町文化協会連合会の支援を行い、文化芸術活動の振興を図った。 文化協会連合会所属会員数 豊津文化協会：267名 勝山文化協会：242名 犀川文化協会：357名 ○ 旧町単位で3支部教会に分かれている文化協会連合会を1つに統合するため、月1回 	A	A	B	A	若手人材を活用するとともに、若者文化の積極的な発信にも期待する。

		<p>のペースで会議を開催し、協議を重ねた。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 平成25年6月1日付けで、3支部教会を統合した、新・みやこ町文化協会が発足予定である。</p>					
	<p>文学を活かした文化振興事業の実施</p>	<p>○ 第27回少年少女俳句大会を開催し、数多くの応募があった。</p> <p>応募人数・句数</p> <p>小学生 3, 463名 7, 574句</p> <p>中学生 1, 400名 2, 899句</p> <hr/> <p>合計 4, 863名 10, 473句</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 少年少女俳句大会の、より一層の振興・発展に努める。</p>	A	A	A	A	十分に成果がでている。

5 スポーツ・レクリエーションの推進

<p>施策の方針</p>	<p>スポーツ・レクリエーション活動は、住民の体力づくりだけではなく、住民相互の交流を生む機会として重要です。総合型地域スポーツクラブや体育協会・スポーツ推進委員による活動を通じて、誰でも、いつでも気軽に参加することができるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。</p> <p>また、既存のスポーツ施設には老朽化が進んでいる施設があり、施設の適正な維持管理に努めるとともに、住民の様々なスポーツ活動のニーズに対応した複合的な活用のできるスポーツ施設の整備を進めます。この他、競技スポーツについても体育協会を中心として推進・強化を図ります。</p>						
<p>主要施策</p>	<p>主要事業</p>	<p>内容・成果</p>	<p>評価</p>				<p>外部評価</p>
			<p>有効性</p>	<p>効率性</p>	<p>達成度</p>	<p>総合評価</p>	
<p>住民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進</p>	<p>スポーツ推進計画の策定</p>	<p>○ 現在、検討中。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 県の推進計画策定後に、県の計画に沿って本町としての計画を策定する予定。</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>C</p>	<p>C</p>	
	<p>子どもから高齢者の体力づくりの推進</p>	<p>○ スポーツフェスタ・マラソン大会・チャレンジデーなどを実施した。また、幅広くスポーツに親しめるようにみやこ町体育協会・みやこ町スポーツ推進委員と連携し、各種スポーツ大会を開催した。平成24年度は、福岡県民体育大会（陸上・駅伝）、北九州地区スポーツ少年団駅伝競走大会を実施した。</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>年齢を問わず、老若男女が一同に介して楽しめるスポーツ行事を期待する。</p>

		<p>○ 学校より指導者派遣依頼を受け、指導者の派遣を行っている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 子どもから高齢者まで行える新たなニュースポーツも出てきており、指導者やスタッフの手配などで苦慮する面もあるが、今後町民の健康維持・体力増進を図るきっかけづくりを推進していくため、関係団体や指導者等と協議・検討し、より多くの人が参加できるよう勧めていく。</p>					
	<p>総合型地域スポーツクラブ⁵や体育協会・スポーツ推進委員⁶によるスポーツ・レクリエ</p>	<p>○ スポネット TOYOTSU が総合型地域スポーツクラブとして設立されており、エンジョイスポーツプログラム・シニア体力アップ運動教室・水中運動教室を実施した。</p>	A	B	B	B	

⁵ 総合型スポーツクラブ：日常的に拠点となる施設を中心として、種目、年齢や目的、技術レベル等の個々のニーズに応じた活動を地域で行うスポーツクラブ。

⁶ スポーツ推進委員：教育委員会が委嘱する地域の体育振興の実務を担当している役職。

<p>ーション活動の推進</p>	<p>○ リズム体操教室18回、リズム水泳教室6回(3園41名参加)、水泳教室8回(定員50名に対し32名参加)、海洋性スポーツ教室10教室、研修6回、(カヌー・ヨット310名参加)</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 総合型地域スポーツクラブとして、スポネットTOYOTSUが設立され、10年が経過し、クラブとして軌道にのってきているが、まだ自主運営が出来ていない部分もあり、今後町民の健康維持・体力増進を図るきっかけづくりを推進していくため、関係団体や指導者等と協議・検討し、より多くの人に参加できるように進めていく。</p>					
<p>スポーツ推進委員等による</p>	<p>○ 各地区へ出向いての体力測定・小学校でのヤカーリング・</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	

<p>ニュースポーツ⁷の普及・推進</p>	<p>ドッチビー等の広報掲載による啓発、スポネットTOYOTSUとの連携による指導者としての派遣を実施した。</p> <p>○ スポーツ推進委員による「遊ぼうデー」や「ふれあい教室」を犀川・勝山地区で月1回実施した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ スポーツ推進委員の学校への派遣や月1回の教室を行っているが参加者を増やすため、町民への周知を図り、今後、町民の健康維持・体力増進を図るきっかけづくりを推進していくため、関係団体や指導者等との協議・検討し、より多くの人に参加できるよう進めていく。</p>						
<p>スポーツフェスタの充実</p>	<p>○ 「スポーツフェスタ IN みやこ2012」としてアジャタ・</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>多様な種目からなるスポーツフェスタは町民にとっ</p>	

⁷ ニュースポーツ：一般に、勝敗にこだわらずレクリエーションの一環として気軽に楽しむことを主眼とした身体運動をさす。グラウンドゴルフのように、既存のスポーツをプレーヤーの年齢・体力・運動技術・プレー環境等に応じて改変したもの等が含まれる。

		<p>ウォークラリー・ソフトボール・卓球・軟式野球・バレーボール・グリーンソフトボール・グランドゴルフ・登山教室を実施した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 各種団体等と実施しているが、スタッフや審判、指導者の手配等で苦慮する面があり、また、参加者を増やすため、町民への周知を図り、今後、町民の健康維持・体力増進を図るきっかけづくりを推進していくため、関係団体や指導者等との協議・検討し、より多くの人に参加できるように進めていく。</p>					<p>て魅力ある催しであろうが、それを支える審判やスタッフなどの人材確保は大きな課題となる。</p>
<p>競技スポーツの推進</p>	<p>体育協会によるチャンピオンスポーツ⁸の実施支援</p>	<p>○ 各種スポーツ大会、講習会の実施</p> <p>町大会 38回</p> <p>郡大会 6回</p> <p>講習会 5回</p> <p>郡・県大会等への出場助成（水</p>	B	B	B	B	

⁸ チャンピオンスポーツ：競技スポーツ選手育成のための取り組み。

		<p>泳・陸上・駅伝・ソフトボール・卓球等)</p> <p>県大会 101名・17チーム 郡大会 159名・15チーム スポーツ少年団対への支援 19団体</p> <p>○ 郡・県大会及びそれに伴う練習での施設使用料の減免</p> <p>○ 各種大会選手服装整備（ユニホーム）、大会機材の整備（卓球台、ソフトバレー用ネット購入）</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 競技スポーツへの支援等については、今後、体育協会との協議・検討し、進めていく。</p>					
<p>体育施設の利用促進のための施設整備とネットワークづくり</p>	<p>複合的な活用を考えたスポーツ施設の整備</p>	<p>○ 豊津・犀川・勝山・運動公園を補修・修理等を行いながら、施設間において複合的に使用できるように整備を行っている。</p> <p>・犀川運動公園キュウビクル内遮断器接続工事</p> <p>・犀川B&Gプール横解体外側溝及び舗装修繕工事</p>	B	B	B	B	

		<ul style="list-style-type: none"> ・勝山体育館屋根防水工事 ・伊良原プール土砂浚渫工事 <p>《課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各施設とも老朽化が進んできており、補修工事や修繕等が必要となってきた。予算的に厳しい状況ではありますが、施設の適正な維持管理に努め、施設の整備を進めていく。 					
	海洋性スポーツ・レクリエーション施設（B & G 財団）の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校・子ども育成会等の依頼によりカヌー・ヨット教室を実施、また、町主催による体験教室も実施した。 ○ 海洋性スポーツ・レクリエーション（カヌー・ヨット教室310名参加）、B & G プール（利用者 名）、水泳教室（32名参加）、学校・保育所の授業による利用（無料）、B & G 体育館（利用者49, 609名）、学校行事・部活動など利用（無料）、各種団体（子ども会、福寿会など）への使用料減免措置 	A	B	A	A	みやこ町の特色ある施設であり、今後も内容を充実させ、継続してもらいたい。

		<p>の実施。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ B & G艇庫の船艇機材についても老朽化しており、修繕等が必要になってきている。予算的に厳しい状況ではありますが、船艇機材の適正な維持管理に努め、施設の整備を進めていくとともに学校や子ども会など各種団体に呼びかけ利用促進を図る。</p>					
指導者の育成	スポーツ・レクリエーション指導者の育成	<p>○ B & Gリーダー研修を行い、4名を育成した。また、北九州地区スポーツ少年団によるスポーツリーダー養成講習会兼スポーツ少年認定員養成講習会を本町で実施した。スポーツ少年団指導者30名が受講。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ 現在、指導者としての登録は増えてつつあるが、指導者としてのレベルアップが必要、今後、新たな指導者としての養成と</p>	A	B	B	B	

		ともに指導力の向上を図って いく。					
--	--	----------------------	--	--	--	--	--

平成 24 年度 みやこ町教育委員会自己点検・評価に対する外部評価委員会の所見

外部評価委員長 木山 徹哉（九州女子大学 人間科学部教授）
委員 大八木 孝之（教職員経験者 県立高等学校長経験者）
委員 中谷 秀俊（教職員経験者 中学校長経験者）

みやこ町教育委員会が平成 24 年度に取り組んだ活動について自己点検・評価をおこなったが、その点検・評価に対して外部評価委員会は 2 回に亙る委員会において慎重に審議した結果、以下のような所見を述べる。

1. 外部評価の意義、並びにみやこ町教育委員会点検・評価の方法

『地方教育行政の組織および運営に関する法律』の一部改正（平成 20 年 4 月施行）により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、報告書を作成し、議会に提出するとともに、情報公開の一環として広く市町村住民に公開することにより、住民に対してアカウントビリティを果たすことが求められることとなった。これに対応して昨年度みやこ町教育委員会においても、平成 23 年度の活動状況に対して点検・評価を実施した。他の自治体と比べて、点検・評価並びに外部評価の実施がやや遅れたが、教育委員会において関連資料の検討及び内部の意見調整を経て開始されることとなった。

外部評価の 2 年目に当たる今年度の点検・評価及び外部評価は、前年度の外部評価の内容及び方法をほぼ踏襲して、平成 24 年度の教育委員会活動を、Ⅰ. 教育委員会の活動、Ⅱ. 教育委員会が管理・執行する事務、Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務、の 3 つに区分し、それぞれについて教育委員会の活動の進捗・達成状況等を点検・評価している。その中で、「Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」については、「みやこ町総合計画（2007～2016）」（平成 19 年 3 月）の基本施策「【教育 文化】地域の個性を活かした教育・文化のまち」に対応している。この基本施策は、「学校教育における学習環境の充実」、「生涯学習のための環境整備」、「図書館の充実」、「博物館・文化財の整備・充実と芸術文化の振興」、「スポーツ・レクリエーションの振興」の 5 つの施策

から構成され、各々に主要施策並びに主要事業が設定されている。自己点検・評価及び外部評価は、それらの達成に向けて実施された活動（取組）に対して点検・評価を実施している。

各評価項目（取組）に対する点検・評価並びに外部評価にあたっては、「Ⅰ. 教育委員会の活動」及び「Ⅱ. 教育委員会が管理・執行する事務」については、各取組の実施状況に対して、評価基準を「A.達成できた」「B.おおむね達成できた」「C.達成できなかった」の3段階評価として教育委員会が自己点検・評価したものを、項目ごとに外部評価委員その内容を確認し、別紙評価シートに評価を記載するとともに、以下の所見で総合的評価を記載する形を採っている。また、「Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」については、「有効性」、「効率性」、「達成度」の観点及びそれら3つの「総合」という、合わせて4つの観点が設定されている。そして、「有効性」の観点から「A.有効である」「B.おおむね有効である」「C.あまり有効でない」、また「効率性」の観点から「A.実施できている」「B.おおむね実施できている」「C.実施できていない」、「達成度」の観点から「A.期待を上回る」「B.おおむね期待通り」「C.期待を下回る」、最後に「総合評価」として「A.B.C.」の、それぞれ評価判断基準を設けた。この評価方法による各項目の点検・評価の結果について、外部評価委員会は、2回に亘る聞き取りにおいて各担当部署に具体的な説明を求め、別紙評価シートにできる限り簡潔にその評価を記載するとともに、以下の所見において詳細に述べている。

2. 「教育委員会の活動」及び「教育委員会が管理・執行する事務」に対する外部評価

「教育委員会」には狭義の教育委員会と広義の教育委員会があり、前者は原則5名の教育委員により構成され、後者は前者に事務局を含めた全体組織を指す。みやこ町の教育委員会（狭義）は、5名で構成され、構成員は教育長、教職経験者2名（元高等学校長1名、元小学校長1名）、民間代表2名（企業社長1名、女性1名）であり、領域等バランスのとれた構成となっている。

ここでは、上記「Ⅰ. 教育委員会の活動」及び「Ⅱ. 教育委員会が管理・執行する事務」に係る取組について以下に所見を述べる。

[1] 教育委員会の活動

(1) みやこ町教育委員会会議の運営、公開等

①教育委員会の会議運営等について

会議は定例11回、臨時6回が開催され、開催回数自体は問題ないと判断する。なお、臨時会議6回の開催は、昨年度（8回）に続き多いが、緊急に対応すべき案件がありやむを得ないことと考える。

②教育委員会の会議の公開等に関すること

教育委員会の存在意義等、教育委員会に対する近年の議論に鑑み、会議の公開等積極的な情報発信が望まれるところである。自己点検・評価においても、会議の傍聴を促す取組や、電子媒体等を活用した情報発信の努力が不十分であることを認識している。この点に対しては、平成 25 年度 4 月から教育委員会の開催についてホームページに掲載することを開始しており、今後の一層の工夫・改善を期待する。

③教育委員の自己研鑽、並びに学校等教育施設に対する支援等に関すること

県内あるいは京築地区で実施された研修会、並びに各学校で開催された研究発表に積極的に参加していることが確認できた。しかし、教育委員の研修については、みやこ町の教育課題に対応した独自の研修も検討することが望まれる。また学校訪問についても、各教育委員の訪問目的及び課題の明確化や、計画的な訪問の在り方について、今後の検討を期待する。

[2] 教育委員会が管理・執行する事務

全体的に概ね良好な活動が行われていると判断する。教育行政の運営に関する基本方針の策定では、みやこ町総合計画における教育施策に加えて、みやこ町教育施策（「みやこ町学校の在り方について」（平成 25 年 2 月答申）について審議・策定して各学校に配布するとともに、その実施に向けて、教育委員会の組織体制の強化に動き出していることは、十分評価に値する。今後の具体的実施に期待する。

また、教育委員会の規定及び規則に関しては、適切に規則改正が実施されていると判断する。

3. 「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」に対する外部評価

「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」は、前述したように、「みやこ町総合計画（2007～2016）」（平成 19 年 3 月）の基本施策「【教育 文化】地域の個性を活かした教育・文化のまち」に掲げられた主要施策並びに主要事業の達成に向けて設定された取組に対して点検・評価を実施している。主要施策は 5 つに大別される。それは、「学校教育における学習環境の充実」、「生涯学習のための環境整備」、「図書館の整備・充実」、「博物館・文化財の整備・充実と芸術文化の振興」、そして「スポーツ・レクリエーションの推進」であり、それぞれの大項目のもとにいくつかの主要施策、さらにその主要施策のもとに主要事業が示されている。点検評価は、

主要事業の進捗状況及び成果を確認し評価したものである。以下は、教育委員会による自己点検評価に対して外部評価委員会が実施した評価の所見である。

< 1 > 学校教育における学習環境の充実

標記の大項目のもとに、「学校教育の充実」、「学校施設の整備・充実」、「学校給食の充実」、「児童・生徒の安全確保」、「家庭教育の充実」、「山村留学の推進」の6つの主要施策が設けられている。

(1) 学校教育の充実

この主要施策のもとに、「生きる力の育成促進」、「学習環境の確保」、並びに「特色ある学校づくり」の3つの主要事業が示されている。「生きる力の育成促進」については、「基礎学力向上に向けた教育の充実」、「心の教育の推進」の2つの取組が、また、「学習環境の確保」については、「不登校児童・生徒に対する相談窓口の設置」、「特別支援教育の充実」、並びに「世代間、地域間交流による地域に開かれた学校づくりの推進」の3つの取り組みが、さらに「特色ある学校づくり」については、「小中一貫教育の推進」と「国際感覚を養う教育の充実」の2つの取組が、それぞれ実施されている。

これらの取組のなかで、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「基礎学力向上に向けた教育の充実」は、i) 35人学級の実施に向けた町雇用常勤講師の配置や、複式学級補助を目的とした町雇用非常勤講師の配置、ii) 町予算でドリル学習や習熟度テストを実施し教科指導の強化を図っていること、など着実な取組がなされていることを評価する。しかし一方で、昨年度外部評価において課題を指摘した小中学生の客観的学力分析及びそれに基づく学力向上に向けた対策の検討という点については、24年度においても十分に示されていないことを指摘せざるを得ない。ただし、学力向上検証委員会の設置等この課題に対応する取組がなされつつある。今後を期待する。
- ② 「心の教育の推進」は、今日学齢期の子どもを対象とする教育の重要課題である。不登校への対応や豊かな学齢期の保障等のために有効な取組が期待され、各地で実践も積み重ねられている。そのような中で、みやこ町の取組では、適応指導教室対応講師の配置や、相談窓口の設置と指導主事の配置、あるいはSWの配置、さらには教員の研修など、不登校解消のための有効な措置が採られている。
しかし、「心の教育」を不登校への対応に限定することなく、例えば「学齢期における人間関係能力の育成」など「豊かな心」の育成をめざして、「心の教育」を幅広くかつ根本的な教育課題として展開することが重要である。
- ③ 「特別支援教育の充実」については、特別支援学級支援員や介助員が適切に配置されていると判断する。しかし、支援の必要な新就

学児童の情報の共有や継続的支援に必要な組織づくりという点では、現在、健康づくり課や住民課等行政組織と保育機関等の連携はあるが、今後その連携をリードする行政内横断組織ともいべき組織の設置も検討されたい。

- ④ 「世代間、地域間交流による地域に開かれた学校づくりの推進」については、「総合的な学習の時間」の講師として地域の講師を活用するため予算化し、100名を超える講師が登録され多方面の学習活動の展開が実現している。高く評価する。

(2) 学校施設の整備・充実

この主要施策では、「特色ある学校づくりの推進」と「小中学校施設の改修」の2つの主要事業が示されている。

教育委員会の諮問に答えて学校在り方検討委員会（平成24年6月設置）により「みやこ町学校在り方について（答申）」（平成25年2月）が提出された。この答申は、「学校の施設及び整備の在り方」、「円滑な接続を図るための小中連携及び小中一貫の在り方」、「学校・家庭及び地域の連携又は協力による教育活動の在り方」等について検討された結果である。答申は教育講演会等で公開されている。この答申を踏まえて、小中学校再整備計画策定委員会が設置され、今後具体化されることになる。校舎等の老朽化は児童・生徒の安全性の観点から早急に対応が必要なものもあり、今後の再編整備計画策定が喫緊の課題であるとともに、児童・生徒の安全確保に対応する整備実施も急がれるところであろう。

(3) 児童・生徒の安全確保

「地域・学校の連携強化」、「スクールボランティア、スクールガードの育成」、「スクールバスの運行、通学区の見直しによる活性化」の3つの主要事業を展開している。

児童・生徒の安全確保のための地域・学校の連携強化の取組は、見守り安全隊（ボランティア）の組織化等により着実な成果を挙げていると判断する。スクールバスの運行については、通学区の見直しと関連しており、みやこ町のまちづくりや小中学校の再編整備の取組の中で検討される事項であるため、関係組織間の連携による総合的な検討が待たれるところである。

(4) 家庭教育の推進

「保護者の家庭教育機会の充実」を具体化する取組として、教育講演会の開催やリーフレット（「家庭学習の習慣を身につけよう」）の配布などが実施されており、家庭教育の推進が着実に行われていると判断する。特に、みやこ町学校の在り方検討委員会の情報を公開し

たり、保護者に学校教育の最新情報を伝えたりする教育講演会の実施は、教育委員会の活動の内容を具体的に周知する取組として重要であり、今後の取組の一層の充実を期待する。

(5) 学校給食の充実

この主要施策では、「学校給食センターの整備・充実」、「米飯給食の拡大」、「地場産農産物の利用推進」の3つの主要事業が示されている。これら主要事業は、その有効性も確認されており着実に取組が行われている。町独自の給食センターが完成しハード面の充実がはかられたことを高く評価する。今後は、食育の推進のため、生徒向け、保護者向けの栄養教諭の活動の検討等、ソフト面（内容、方法）の工夫、改善を期待する。また、地産地消等地域活性化を視野に入れた取組も一層の充実を期待する。

その他の主要施策として、「山村留学の推進」については、この施策の必要性・有効性について再検討を望む。

< 2 > 生涯学習のための環境整備

この取組みでは、みやこ町総合計画後期基本計画（2012 - 2016）に示された2つの主要施策、すなわち「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」学ぶことができる学習機会の提供」と「生涯学習環境の整備」の主要施策を推進している。

i) 「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」学ぶことができる学習機会の提供」では、その取組名称のように、高齢者、女性、及び青少年をそれぞれ対象として学習機会の提供のための「ふれあい大学」「さわやか大学」「女性学級」など多様な事業が展開され、学習意欲のある多くの参加者を得ている。参加者のニーズを継続的に把握しつつ、一層の充実を期待する。

また、各種講座の充実も主要事業として挙げられている。これらの事業については、その有効性を確認し概ね着実に実施されていると判断するが、今後各事業において、参加者が一層主体的に講座運営に関わり、学習活動が徐々に効率的かつ自主的に運営されるよう工夫していくことが望まれる。

ii) 「生涯学習環境の整備」では、「生涯学習情報提供の充実」、「社会教育団体などの支援事業」、並びに「地域人材を活用した学習内容の充実」の3つが主要事業として展開されている。これらの取組のなかで、生涯学習の継続的かつ発展的な推進のために特に重要なものとして、各種活動団体の育成及び指導者・ボランティアの育成が挙げられる。これらの育成事業における今後の展開を期待する。

＜3＞図書館の整備充実

図書館の整備充実施策では、「図書館の利用促進」と「図書館を活用した地域文化活動の促進」の2つの主要施策が展開されている。

i) 前者においては、「レファレンスサービスの充実と利用促進」、「図書館と学校図書室・関係機関との情報共有・連携」、並びに「移動図書館による図書提供の充実」の3つの主要事業が取り組まれている。概ね着実に実施されていると判断する。特に平成24年にスタートした移動図書館車での貸出については、今後の状況を調査分析していかなければならないが、初年度としての実績は評価に値する。

ii) 後者については、「児童・青少年の読書活動の推進」や「読書ボランティア等の人材の育成・確保」などを含む4つの主要事業が展開されている。その中で、「児童・青少年の読書活動の推進」事業における子ども読書週間の「ブックリサイクル」の試みは高く評価される。この取組を含めて児童・青少年の読書活動の推進を一層発展させるためにも、読書ボランティア人材の養成の一層の充実を期待する。

＜4＞博物館・文化財の整備・充実と芸術文化の振興

「町内の文化財の有効活用」、「歴史民俗博物館の事業振興と機能強化」、「遺跡・文化財の整備推進」、及び「総合的な文化振興事業の推進」の4つが主要施策として示されている。いずれも概ね着実に実施されていると判断する。

i) 「町内の文化財の有効活用」では、国府跡公園の活用をはじめ、マップ改訂版の作成及び仲哀峠案内板の設置など有効活用に向けた継続的な取組が認められる。

ii) 「歴史民俗博物館の事業振興と機能強化」では、展示事業や教育普及事業、さらに小中学校学習支援など継続的な取組が認められる。この取組の利用者数が対前年比微減してはいるが、今後も一層の広報活動を展開していただきたい。情報発信については、「みやこ町デジタルミュージアム」の一層の充実を望む。

iii) 「総合的な文化振興事業の推進」では、旧町体制を打破し、新・みやこ町文化協会連合会の発足に向けた取組が始まったことを評価したい。

＜5＞スポーツ・レクリエーションの推進

「住民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進」、「競技スポーツの推進」、「体育施設の利用促進のための施設整備とネットワークづくり」、並びに「指導者の育成」の4つの主要施策が示されている。これらの取組は良好な実績を積み重ねていると判断する。今後も、所期の目的である住民の体力づくりや住民相互の交流に資する機会として、これら事業の発展的継続を期待する。

事業の発展のために一つ課題を指摘するならば、主要事業の一つ「子どもから高齢者の体力づくりの推進」や「スポーツフェスタの充実」においては、多様な種目からなる「体力づくり」や「スポーツフェスタ」は町民にとって魅力ある催しであるが、それを支える審判やスタッフなどの人材確保は大きな課題となる。この点の課題解決への取組を期待する。

4. 全体所見

これまで主要事業の各取組について評価してきたが、最後に全体所見としていくつか述べる。

(1) 自己点検・評価及び外部評価における教育委員の関わり方について

平成 23 年度の教育委員会活動に対して実施した昨年度の外部評価において、外部評価の基本資料となった自己点検・評価に、教育委員がどのように関与したかが問題となった。その際、外部評価所見の中で、今後の課題として自己点検・評価及び外部評価における教育委員の主体的関与の必要性について指摘した。今年度もこの課題を再度指摘しておきたい。教育委員会の意義、教育委員会の役割・機能とその活動の公開性等が課題になっている今日、毎年実施され公開される外部評価に際して、例えば外部評価委員による聞き取りの場に教育委員が積極的に関わるなど、主体的関与を検討されたい。

(2) みやこ町総合計画後期基本計画と「みやこ町学校在り方について（答申）」との整合性、及び自己点検・評価の項目との関係について

今年度の教育委員会自己点検・評価の項目は、先述したように「みやこ町総合計画後期基本計画」に掲げられた主要施策に対応して設定されている。したがって、今後の自己点検・評価も 2016 年までは、基本的には今年度と同様の評価項目で実施することになるだろう。しかし、平成 24 年度に提出された「みやこ町学校在り方について（答申）」の具体化と、「基本計画」との整合性や各取組の見直しをどのようにするか、このことはまた自己点検・評価の項目の見直しにも繋がる。この点について検討願いたい。

自己点検・評価項目の基本となった「【教育文化】地域の個性を活かした教育・文化のまち」（基本施策）は、「総合計画」に位置づくものであり重要でもあるが、教育文化領域における独自の課題や速やかな対応を迫られる問題も多くある。それらの課題や問題に対応する有効で効果的な取組について、教育委員会のリーダーシップによる施策の策定も必要であろう。昨年度の「みやこ町学校在り方について」に関する一連の取組と今後の具体化に向けた動きは、その意味で重要である。